

令和7年度 神奈川県アレルギー疾患相談事業 相談・回答一覧

	学校・施設種別	アレルギー疾患名							相談内容	回答
		食物アレルギー	気管支ぜん息	アトピー性皮膚炎	アレルギー性鼻炎	アレルギー性結膜炎	花粉症	その他		
1	保育所	○							1歳児女児、小麦・卵アレルギー、にんにく・牡蠣にアレルギー反応して、生活管理表を受け取った時は指定があったので、現在(コンソメ) 除去をしているが、医師から付加テストで不要と言われています。 ・このような、アレルギー除去食品が確定しない時期の対応の重要点を教えて欲しいです。 ・小麦は、微量でも空中に飛ぶなどしても体内に入り、反応が怖いので、集団生活で触れないことは不可能。注意点を教えて欲しいです。 ・クリスマスケーキなどの代替え食品をどうしていけばよいでしょうか。	・診断と管理について 食物アレルギーの診断は、血液検査の結果だけでは確定できません。実際に食べた時の症状や必要に応じて行われる「食物経口負荷試験」などを合わせて、医師が総合的に判断します。 生活管理指導表に記載されている内容だけでは対応が難しい場合には、主治医や専門医に直接問い合わせることも検討してください。実際の調査では、約1割の小学校がそのように医師と連携を取っていると報告されています。 ・小麦アレルギーの種類と注意点 小麦アレルギーには、主に2つのタイプがあります。小児に多い「食べて症状が出るタイプ」と、大人に多い「小麦の粉などを吸い込んで症状が出るタイプ」です。 小児の小麦アレルギーの場合、給食や保育中に微量の小麦を吸い込むことによって重い症状が出るケースは非常にまれです。そのため、過度に心配する必要はありませんが、万が一に備えて、適切な対応や職員間の共通理解は大切です。 ・アレルギー対応のケーキについて 食物アレルギーがあるお子さんには、行事食（たとえばクリスマスケーキ）も安心して楽しめるよう、アレルギーに配慮したケーキの提供を検討すると良いでしょう。
2	保育所	○							・自分の汗や体温に反応して蕁麻疹が出てしまう子がいます。突然症状が出るため初めは何が原因か分からずに、対策など行えなかったのですが、記録を取る事で汗や急な体温の変化などで出ているのでは？という事がわかってきました。今後できる対策や予防策などはありますか。 ・食物アレルギー対策で個別トレイや、声出し複数確認など食物アレルギー対応マニュアルに添って行っていますが、その日の食材でアレルギーのものが確実にない時なども個別トレイ、個別の席など行った方がよいでしょうか。	・蕁麻疹の誘因を特定することは、一般的に難しいとされています。 汗や体温の変化が悪化要因となるケースもありますが、蕁麻疹の8～9割は明確な原因がない「特発性蕁麻疹」と考えられています。蕁麻疹が出ても、特にかゆみがないなら、特別な介入をしなくてもよいと考えられます。症状が頻繁に出て生活に支障がある場合は、医療機関を受診をおすすめします。花粉症に使われるような薬を予防的に毎日飲むことでほとんど症状が出なくなります。 ・食物アレルギーによる誤食の主な原因は、誤配や伝達ミスといった人的エラーであるとされています。 そのため、誤食を防ぐには、対応をできるだけ「単純化」することが重要です。たとえば、「アレルギーがない日だから」といって個別トレイや席の対応を変更すると、混乱が生じやすくなり、特にアレルギー児が複数いる場合には誤食のリスクが高まる可能性があります。一方で、子どもの気持ちへの配慮も非常に大切です『食物アレルギー対応マニュアル』でも述べられている通り、アレルギー児が自分の対応食を前向きに受け止められるような支援や、周囲の子どもたちが違いを自然に受け入れられるような働きかけが求められます。年齢や発達段階に応じた説明や声かけ、環境づくりを工夫することが望ましいと考えられます。
3	保育所	○							・アレルギー疾患のある園児家庭からエビベンをお預りしているのですが、夏場の保管方法について教えてください。 一部情報では、毎朝エビベンをお預りしてお迎えの際お返ししているとお伺いしました。適切な方法についてアドバイスをお願いいたします。	・エビベン®の有効成分であるアドレナリンは光に分解しやすいので、携帯用ケースに収めた状態で保存・携帯してください。15～30℃で保存することが望ましいとされています。冷蔵庫や車内には放置しないでください。 エビベン®は基本的に、アナフィラキシー症状が出たときにすぐに使用できるよう、常に本人の傍に置いておくものです。毎日保護者から預かる、保育所用に置いておくなどの対応は保護者やかかりつけ医と相談し、いつでも使用できる環境を整える必要があります。
4	認定こども園	○						○	職員へ食物アレルギーの研修を行う予定です。 ・日常の保育活動を行う中で、生活上の注意点、対応を教えてください。 園ではピーナツ（エビベン所持しており、軽度の呼吸苦の訴え、全身の蕁麻疹）、卵白のアレルギーが複数います。 ・また、アレルギー疾患の治療に関する最新の知見について教えてください。 ・園外保育などで蜂に刺された場合の対応について教えてください。	・日常生活における注意点や具体的な対応については、保育所における食物アレルギー対応マニュアルを、アレルギー疾患の最新の知見についてはアレルギー学会が提供しているアレルギーポータル(https://allergyportal.jp/)を参考にしてください。 ・蜂に刺された場合の対応ですが、蜂に刺された後、針が残っていることが確認できる場合はできるだけ早く針を皮膚から取り除く必要があります。 刺された直後、ほとんどの人に鋭い痛みや皮膚の腫れ、赤みが生じますが、通常数時間以内に改善します。まずは患部を冷やし、腫れや痛みが続く場合は医療機関を受診してください。 刺された人の10％に、重度の発赤や腫れが現れます。ただし、このような発赤があったとしても、再び刺された際に重度のアレルギー反応（アナフィラキシー）を起こすとは限りません。将来再び刺されたときにアナフィラキシーを起こすのはわずか数％です。蜂刺傷によるアナフィラキシーはよく知られていますが、毎年の全国死亡者数10～20人の大半が高齢者で、しかも山村などの医療機関へのアクセスが悪い場所で発症することが多いと思われます。子どもの死亡例は極めて稀であり、保育の現場において、過度に心配する必要はないと考えられます。
5	小学校	○							・期限が切れた内服薬やエビベンは使用してもよいでしょうか。もしアナフィラキシーなど命に関わる症状が出た場合は期限切れのエビベンでも使用したほうがよいでしょうか。 ・エビベンや内服薬を適切に自己管理できない、または持参できない場合は、学校でアレルギーが起こった際に安全を確保できないと考えています。この場合は給食は完全停止として、期限内のエビベンと内服薬を持ってくるまで弁当持参を依頼した方がよいでしょうか。（本児は魚アレルギーだが、先日学校で初発の卵アレルギー（疑い）を起こしている） ・給食後にアレルギーを疑わせる症状が出た場合に、経過観察が必要かと思うが保護者の迎えが不可能な場合はどう対応したらよいでしょうか。保護者がくるまで保健室で待ち続けなければならないのか、症状に変わらなく保護者の許可があれば学童や自宅に帰してよいでしょうか。	・使用期限の切れたエビベンは期待する効果が得られないため、使用することはできません。速やかに未使用の製品を持って医療機関を受診し、更新するよう保護者へ求めてください。 ・学校給食法にも記載があるように、エビベンの有無にかかわらず除去食の提供は継続するべきでしょう。 ・アレルギー症状出現時の対応に関しては、学校側が適切な助言を行ったうえで、最終的には保護者の判断になると考えられます。